

寺小だより

令和5年度 7月号 NO.4
富田林市立寺池台小学校
校長 阪上佐智子
☎ 0721-29-1477

みんなちがって みんないい



「みんなちがってみんないい」は、金子みすゞさんの詩『わたしと小鳥と鈴と』の言葉です。それぞれ得意なことや不得意なことは違っているけれど、一人ひとり違ってそれでいい、という内容の詩です。

寺小の子どもたちは、落ち着いた心優しい子どもたちです。年下の学年に、登校班で優しく接している風景は、日常的に見られます。荷物を持ってあげる(特に月曜日や雨の日)・1年生に声をかけて正門で一緒に「おはよう」の挨拶をする・こけたり、泣いたりする子がいれば、励ましてずっと寄り添っている・機会があるごとにお世話をする・・・優しくしてもらった子どもは、優しさを身につけます。卒業した中学生が、小学生の落とし物を登校前に届けてくれる、泣いている小学生を校門まで連れてきてくれる、これは、最近実際にあったことです。

しかしながら、多くの子どもたちが生活しているので、ぶつかることもあります。自分と少し違うことを「異質だ」と感じたことがきっかけで、トラブルになってしまう。思い違いからけんかになったり、友達をバカにしたりしてしまう・・・。子どもたちの知っている世界は、まだまだ狭く、経験も少ないので、自分の行動様式がすべてで、自分が正しいと思いがちです。お互いに自分のものさしで物事をはかるので、思い違いも起こります。疑問に思ったらまず相手に尋ねてみること、話し合ってみることを、学校では繰り返し子どもたちに伝えています。学校は、多様性について学ぶことができる場です。友達とぶつかった時には、どうしてそうなったのか理由をお互いに話し合うことで、分かり合っていきます。トラブルを避けるだけで、自分の世界を広げなければ、多様性を実感することは難しいでしょう。みんなちがっているからこそ、分かり合おうと努力することが必要で「私もあなたも、ともに大切で^{とうと}尊い存在である」ことを、これからも伝え続けていきます。

◎^{しかく}四角の中は、^{なか}子どもたちも^こ読み^よみましょう。

6月を^{がつ}ふりかえって、^{ひと}できた人は はなまる🌸です。

🌸 () ^{ひと}人にやさしくしたり、^{しんせつ}親切にしたり しました。

🌸 () ^{なか}ともだちと なかよくしました。

^{なかなお}けんかしても、仲直りできました。